

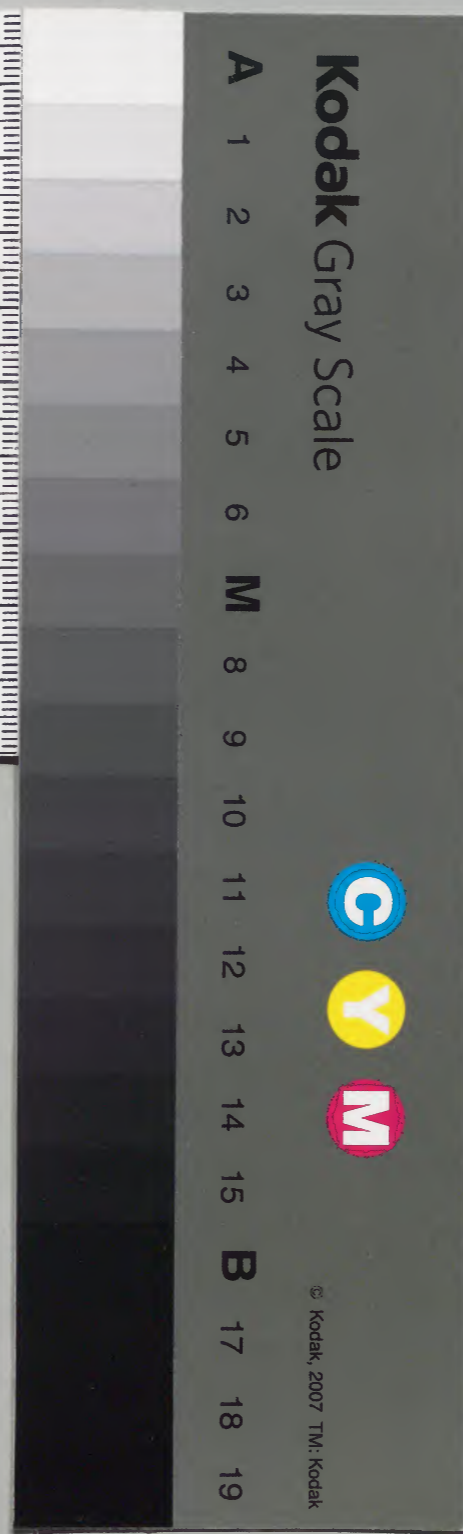
再撰金銀錢譜

坤

和書門			
三五六	一三〇	九	二
號	函	架	冊

内閣文庫		和	84
番號	和	35656	
冊數	2	(2)	
函號	182	41	

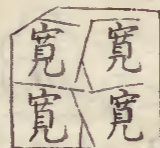
史二八



裏面記載のない箇所は省略



寛字銀

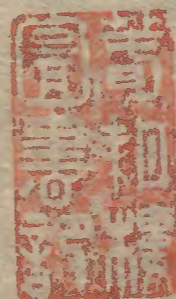


越後國長岡ニテ通用ス民間鈍切銀
トイフ今通用セス昆陽漫録ニ詳也
裏ムシ

Handwritten scribble in the top right corner.

白銀

極印ナリノ銀ハ折込タル取



花降銀

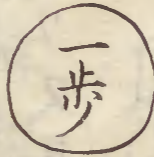
重廿四十三匁
昆陽漫録ニ詳也



サ、イノ蓋ノ形
ニテ小子極印有
ユ(サ、イ)ト云

一步銀

表



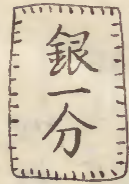
重廿一匁

裏



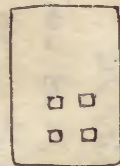
銀壹分

表



重廿一匁

裏



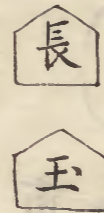
太ノ字銀

何レノ比カ石州ニ戻
吹銀ヲ以録テ一國
ニテ使フト云極印
圖ノコトシ

加州銀

菊ノ極印次ノ字
アリ大サイニ夕
キカス
次

越後銀御藏花降銀 重サ二十又形イニ夕聞ス
元越後寛ノ字永ノ字采ノ極印銀アリ切テ便
ナリ又長字玉ノ字アリ



葛田銀



柏崎銀



新浮銀村上銀イト井川銀白峰花降
御藏花降佐渡銀 古佐渡銀十又二十又
切テアリ形未聞

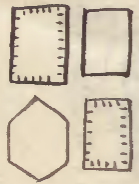
奥州銀

佐竹銀打大豆匠云
豆ヲ打平ノタル如シ

野代銀



窪田銀



極印ノ内ニ

窪田ノ二字

アリ

角館銀

院内銀

角館

院内火箸銀

花降ノ如ク火箸
ニテ花ヲ付タル也

院内

米沢銀

龜甲ノ極印
ナリ

湯沢銀

木瓜ノ内ニ湯沢ノ
古文字アリ

會津花降銀

大キサ
未聞

津輕銀

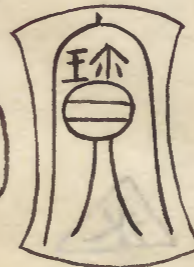
寶ノ字銀

弘前銀ヲ後ニ鑄
尾太ノ極印アリ

玉

三拾

切テ使
フト云



尾太

此二銀重
サ六七十匁
ニ鑄テ切テ
使フ

前弘

弘前

信州銀

キアン吹裏紅ナルユヘ猿尾云形未聞

飛州銀

但州銀



梅ハ千銀
極印如圖

○ 道津銀極印
如圖

石州銀

エギレ銀 灰吹ニテ耳ウスク中アツク裏ヨリ
細長ヲエギレノ魚ニ似タルユヘニ名ワク

對馬花降銀

大キサ未聞

因州銀

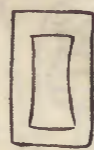
定ノ字銀

(定)

雲州銀 木爪銀木爪ノ極印アリ

伯州銀 長州銀

(伯州 常是)



荻判ト云 極印如圖

筑前銀

傳多銀形分銅ノ如ク重サ 百目三四百目ニテアリ

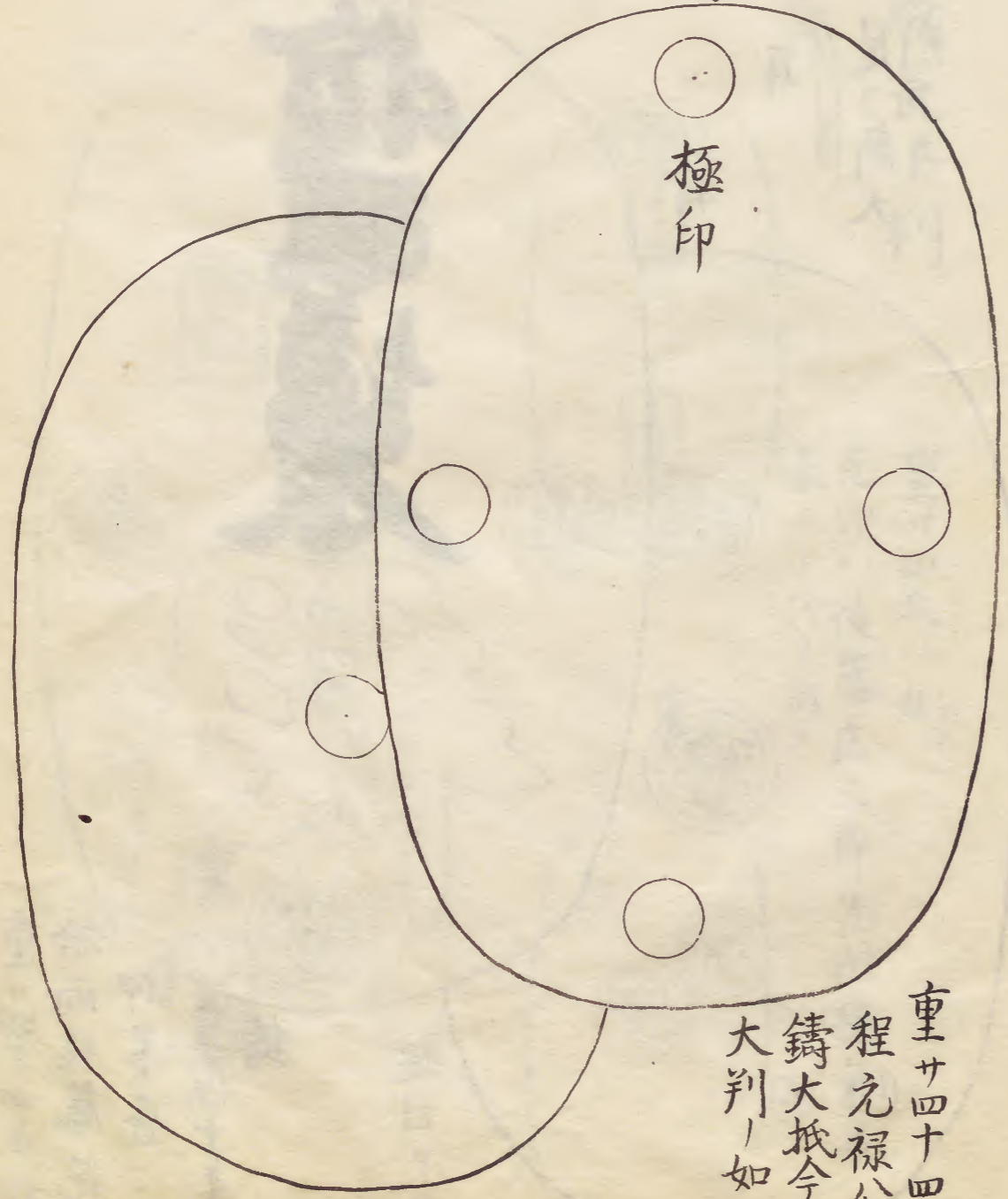
右諸銀ノ外ニ御公用銀ト云ニ品有今ノ鋌銀ノ 如クニ少シ平ク表ニ槌目アリ裏ハ名目極印如 圖

(御公用)

ミワリ槌目ハアリテ 甲ニ此極印アリ

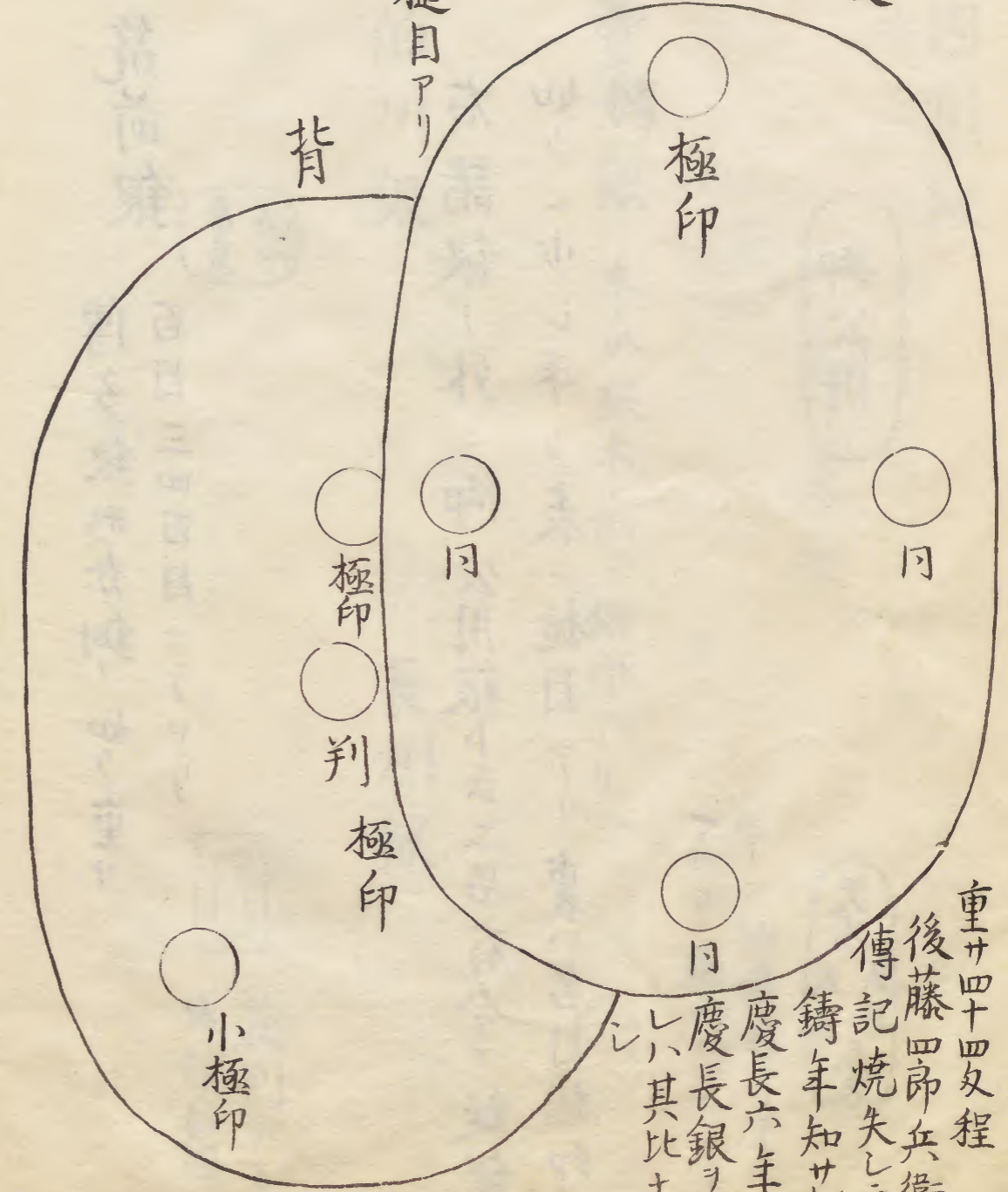
(天ノ 天ノ 天ノ 天ノ)

元禄大判
面



重サ四十四匁
程元禄八年
鑄大抵今ノ
大判ノ如シ

慶長大判



重サ四十四匁程
後藤四郎兵衛
傳記焼失シテ
鑄年知サレ
慶長六年ニ
慶長銀ヲ鑄
シハ其比ナル
小極印

大判

是ヲ新大判ト云

耳

背



重サ四十四匁程
拾兩後藤花
押墨昼

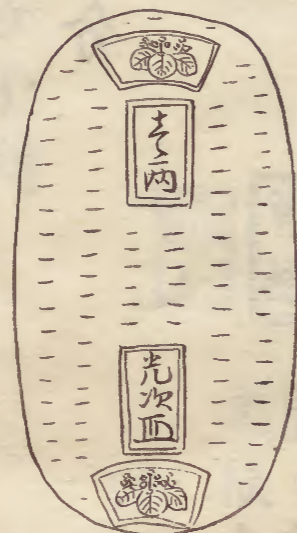
享保十年
鑄

槌目アリ

久
石
竹

慶長小判

同一分



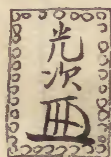
重サ四匁八匁分色
光次ハ後藤庄三郎先祖徳兼名
未ニテ代々用ユ

裏

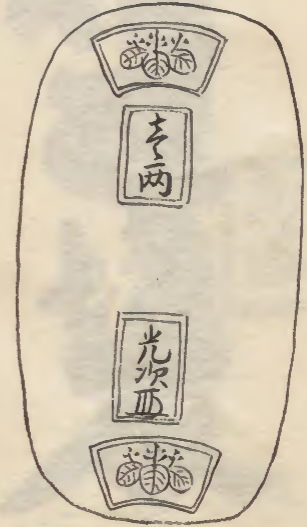


重サ二匁二分

裏

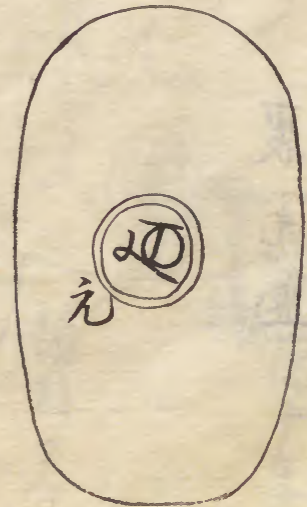


元禄小判

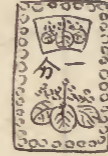


目方慶長卜同
元禄八年鑄

裏

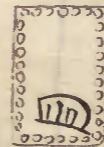


同一分

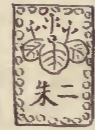


目方月断

裏

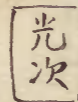


同貳朱

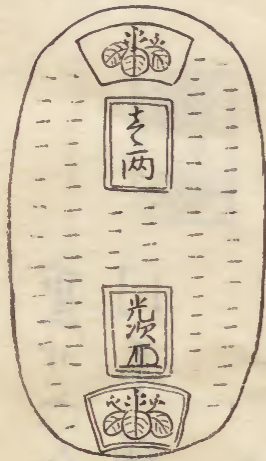


重廿六分
元禄十年鑄

裏

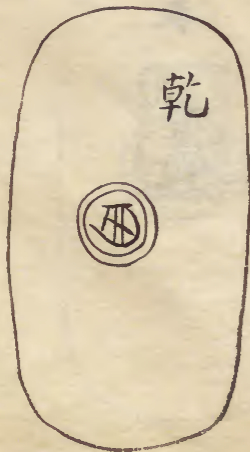


乾字小判

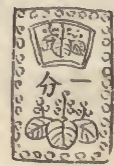


重廿二反五分
宝永七年鑄

乾

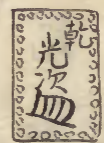


同一分

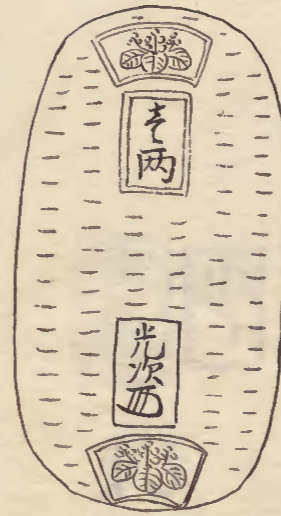


重サ六分二厘九毛
同年鑄

裏



新金小判



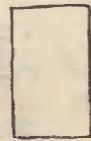
目方慶金ノ如シ
正徳四年鑄ル

裏

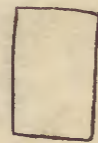


同一分

目方同断



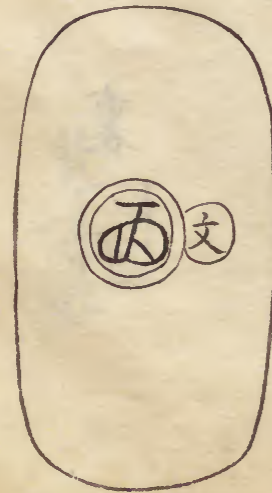
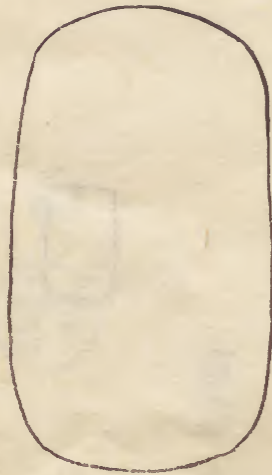
裏



文金小判

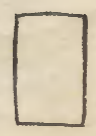
重サ三匁三分
元文元年鑄ル

裏



同 一分

重サ八分七厘五毛

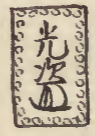


裏



慶長元禄乾金新金文金一分逆桐ト云
有千兩ニ三分宛逆ニ桐ヲ折トモ云フ不
詳逆桐一分ハ重一匁二分ト云折誤ナルニ

慶長



本ノ字折タル有或人曰疵アルヲ
直シタルト云不詳

同 一分

甲州金

重サ一匁

面



甲州ニテ通用ス
松本ハ代々金ヲ
吹者有テ後藤
ノ如シ

背



同

重サ五分

面



背



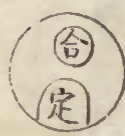
同

一朱重サ二分三厘

面



背



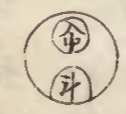
同

朱中重サ二分二厘五毛

面



背



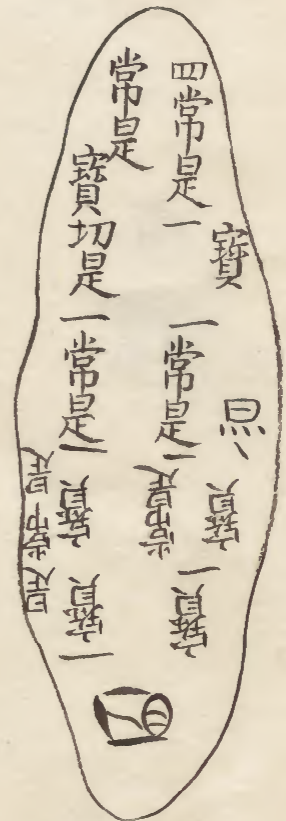
同

古キ朱中ニ裏極印ナシ



慶長丁銀

ウラム千布目アリ丁銀大小一ナラス下
コレニ倣フ慶長六年丑五月鑄ル



形千極印如图

常是ハ大黒長左門
先祖ノ名兼ニテ代、
極印コレヲ用ユ

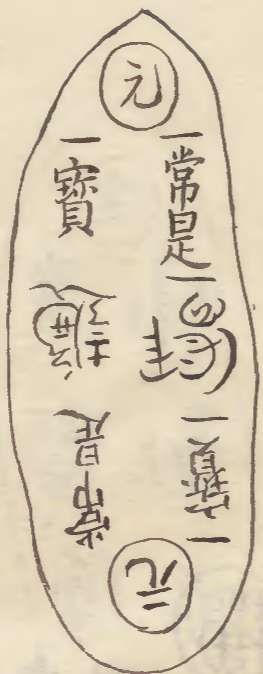
慶長豆板

大小一ナラス



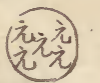
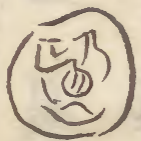
極印丁銀ノ如シ下コレニ
倣フ

元禄丁銀

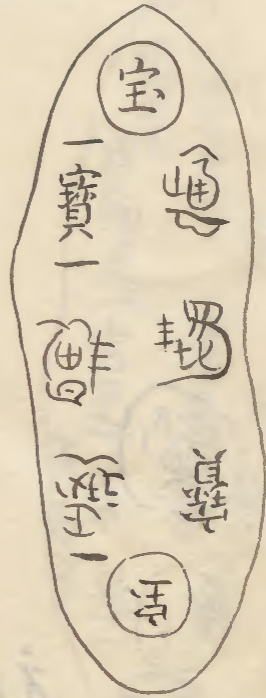


大小一ナラス

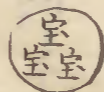
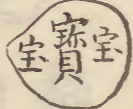
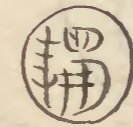
元禄八年亥九月鑄



寶永丁銀

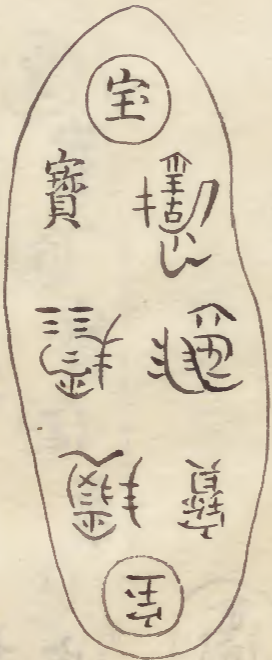


大小一ナラス宝永三年戌六月鑄
宝永銀中銀二宝四宝八關久右
門吹ユニ常是ノ極印ナシ

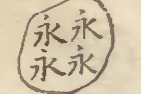
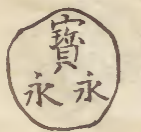
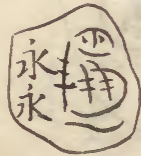


元禄丁銀

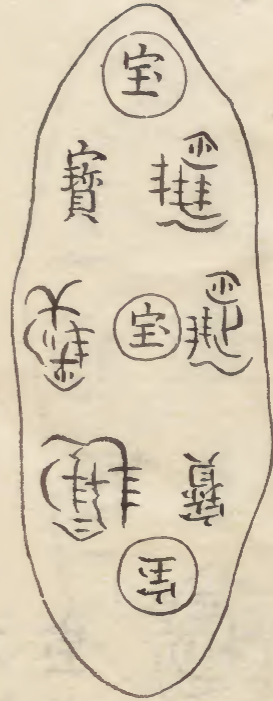
永字銀トモ云



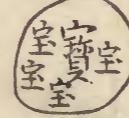
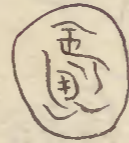
大小一ナラス極印一ナラス
宝永七年寅四月鑄ル



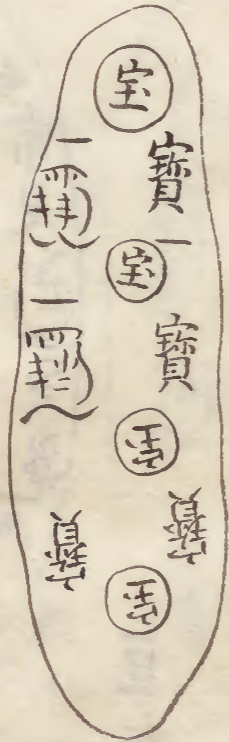
寶永丁銀



大小一ナラス極印一ナラス
宝永七年寅四月鑄ル

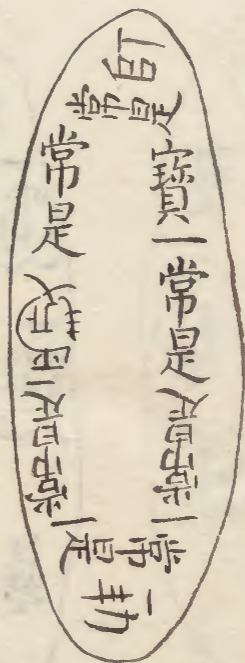


中銀丁銀



大小一ナラス
正徳元年卯八月鑄

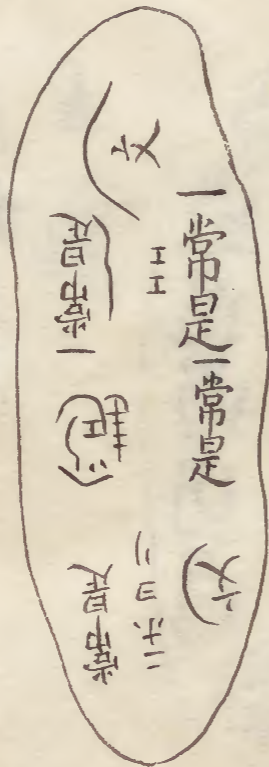
新銀丁銀



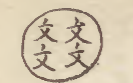
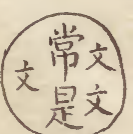
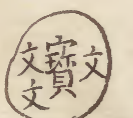
豆板此極印アリ

大小一ナラス
正徳四年鑄

文銀丁銀



大小一ナラス
元文元年辰五月ヨリ鑄



慶長ヨリ文禄ニ至ニテ丁銀豆板イワレモ裏
極印ナシ

慶長

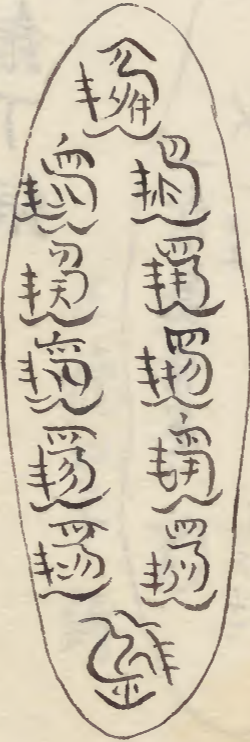
両面大黒銀



裏



元銀大黒



十二大黒卜云

同両面大黒

表



裏



未門名

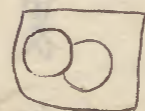
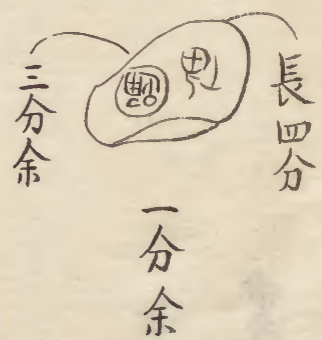
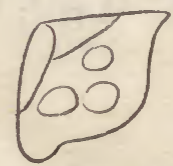
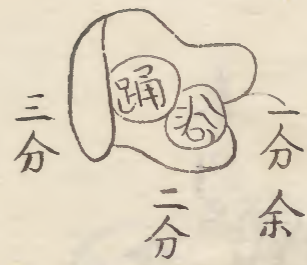


裏



佐渡銀

切テ通用ス



裏極印ナシ

徳通之二印銀ト云二分少余

佐渡ニテコレヲ印銀ト云位ヨロシカラス

武徳編年集成ニ天正十九年十二月

神君關八州へ通用セララルヘキ為ニ後藤徳棄

并門人庄三郎光次ニ命シ黄金ヲ以大小ノ形

ヲ定テ是ヲ鑄サセラル但大判ハ金目四十八

文目ヲ以テ一枚トス是ハ室町將軍家ノ流例

也往古ヨリ今ニ至リ小判ト云テトハナク灰

吹ノ砂金ヲ權衡ニ懸テ通用スト云ヘ凡急要

ヲナサス世ニ難ナルユヘ此度昔年ノ金錢ニ

四増倍ノ積ト四文目八分ヲ以テ小判トシ是

ヲ鑄サセ通用ス慶長十四年右府秀頼洛東大
仏像再興アリ管監ハ長臣片桐市正且元及金
森出雲守也誠ニ無双ノ大管タリ依之四國鎮
西中国ノ諸英工匠ノ糧米二万一万石或五千
石二千石大坂へ運送シ其資用トナス洛陽ニ
於テ石河三右衛門饗場民部ヲ以大岡秀吉聚
歛ノ黄金千枚分銅ヲ漬シ後藤徳兼ニ課セ大
仏資用ノ為大判トセラル徳兼分銅一ワヲ鑄
潰ス時ニ金目減シ大判九百五六十枚トナリ遂

日大判若于出来ルト云々トアレト光次ハ徳
兼カ名兼ニメハ弟子庄三郎カ名兼ニアラス
室町將軍家ノ流例ニテ大判重サ四十八匁ト
云コト正シキ證ナケレハ疑ハレ砂金ハ一物
ニシテ灰吹ノ金ニアラス室町家時板金ヲ通
用スト云傳ヘテ処々ニテ板金ヲ通用スト云
ハ宜シカルヘシ或人大仏大判天正十六年ニ
鑄トイヘトモ後藤四郎兵衛大仏大判鑄シ年
詳ナラスト云ハ此説スヘテシタカヒカ

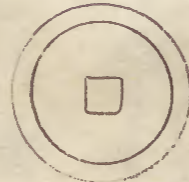
寛永通寶錢の歴史と流通
 寛永通寶は、徳川幕府の初代将軍徳川家康が、寛永十三年（1636）に鑄造させた。これは、日本に於ける初めての統一貨幣であり、以後の徳川幕府の財政を支えた。寛永通寶の流通は、全国的に普及し、民間でも広く用いられた。寛永通寶のデザインは、正面に「寛永通寶」とあり、背面に「一十百」とある。これは、寛永通寶の重量を示している。寛永通寶の鑄造は、寛永十三年から寛永十八年（1641）まで行われた。寛永通寶の流通は、徳川幕府の統一と安定を象徴している。

寛永通寶錢

寛永十三年ニ鑄ル其後
 鑄ラルモミナ寛永ヲ用ユ



重サ平均一匁



同三ノ字錢

或人云三ヨリ十ニテアリ



一匁



一匁



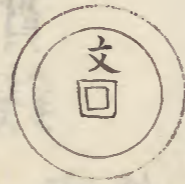
重八分

大佛銭



永ノ字形千カヒアリ

文銭

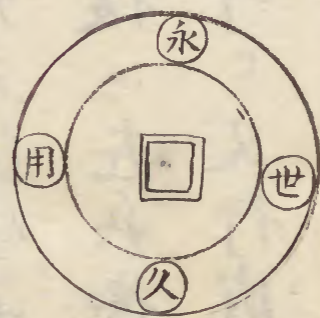
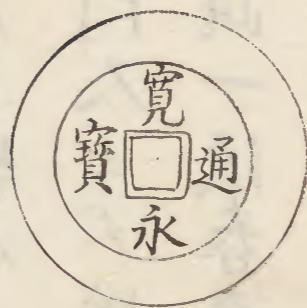


寛文ノ既鑄ラルウラニ文ノ字アリ

寛文中鑄ラル、所ノ錢裏ノ文ノ一字ハ
辻春達拍庸ノ書スル処ナリ拍庸ハ東叡山下
住居ノ樂人ノ子ニシテ弘文院學士林春翁
ノ門人ニメ始ノ辻春達後ニ左兵衛ト称シ
仍此一流春達ヤウトモ呼ヒ又行成ヤウト
モ呼称セリヨク書シ殊ニ楷書ヲ以テ世ニ
鳴レリ幕府ニ召シ御日記役ト成ル其子織
部ト称セリ

大錢

宝永五年鑄ラレ一錢ヲ十錢ニアリ
同六年正月通用止
圈中寛當作室



佐渡錢

表ハ寛永ナリ



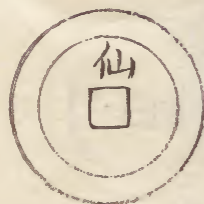
一反

佐渡ニテ鑄ル故ニ佐ノ字



一反

仙臺錢



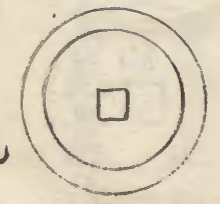
一反

元文金銀吹替以後鑄錢シロノ錢

江戸深川ニテ少
之間吹通用不及

加勢考元文四年
元世百宗初

銀錢
銅錢
ツク銭



重サ八分

元文四年ヨリ吹

山臺

元文四年

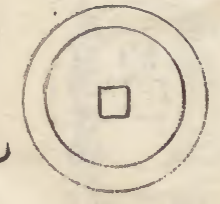
山臺

補曰宝永通寶永世久用珍ノ九ツノ文字
林大學頭信篤門人樋口弥門栄清書ス銭
座ノ頭人長崎人系割符ノ方ヨリ寛文ノ
例ニヨツテ黄金一枚樋口へ送ルト云聖
堂ノ惣門仰高ノ文字モ伊勢豊官崎
公儀御文庫ノ類モ弥門書ス

一冊目下の巻頭紙
新編のりしり

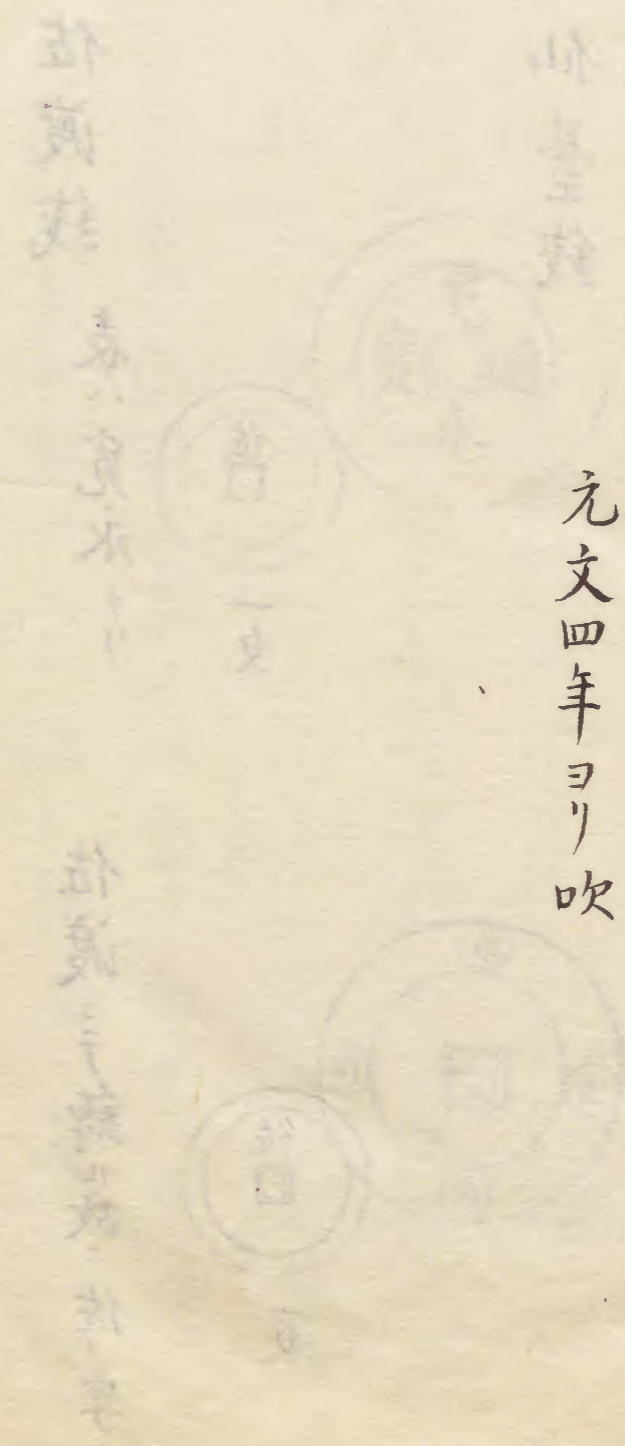
鐵錢

鍋錢 ヲタ錢



重サ八分

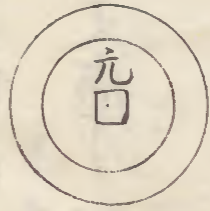
元文四年ヨリ吹



補曰宝永通寶永世久用珍ノ九ツノ文字
林大學頭信篤門人樋口弥門栄清書ス錢
座ノ頭人長崎人系割符ノ方ヨリ寛文ノ
例ニヨツテ黄金一枚樋口へ送ルト云聖
堂ノ惣門仰高ノ文字モ伊勢豊宮崎
公儀御文庫ノ類モ弥門書ス

元字錢

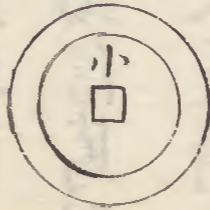
此三錢輕日錢ト云



重廿八分

小ノ字

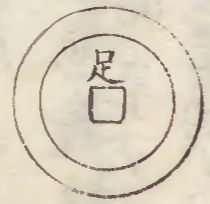
江戸小梅ニテ吹



重廿八分

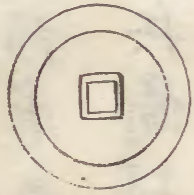
足ノ字

野州足尾ニテ吹



重廿八分

永樂通寶錢



重九分又少

文字正シカラス 今ノ錢鑄法ニアラスト
見ユ天ユ閑物ノ法歟

人王百一代後小松院御宇應永十年癸未八月
二日大風ノ後唐船相州三浦一漂著ス録倉ノ
公方足利左兵衛督滿兼卿奉行ヲツカハシテ
詮議セララル、ニ唐錢数百万貫
仍テ京都へモ被告船中ノ財宝不殘押留シ兵
糧塩噌薪ヲ施シ唐人被追飯

其後鑄ト云恩錢出来テ永樂一錢ニ總四錢ヲカヘタル
ナリ是モ論争メハサレハ日本橋ニ高札ヲ立永樂錢
製禁アリテ總錢ハカリヲ可用旨ナリ

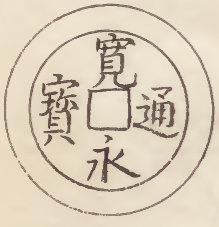
明和五年戊子四月御書付

世上を用以たため於浪座志給淺吹立此
領付志給淺文ある並淺口文と替
お用申す申すて無指支の令を申者也

四月 六月上旬分を申す

真鍮錢

江戸深川ニテ鑄ラル



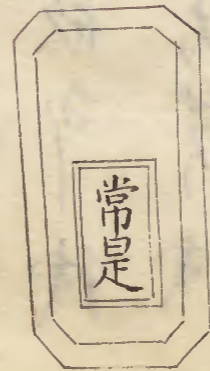
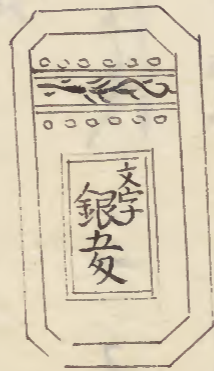
右者此度被 仰付金銀大分銅
 金八 四十七貫七百目
 銀八 四十七貫三百目
 元末三十枚中比十七枚失候二付
 徳廂ノ御時十五枚被 仰付當時九枚出
 来之由享保年中被 仰付代々後藤四郎
 兵衛作之



明和二年乙酉九月五日銀次立

此度文字銀同位より新目より定む銀次立
何れ以来丁銀小玉と云ふ後方清方等席
の紋を用い

文字の銀



花吹十八

本朝寶貨事略

新井筑後守源君義著

一天武白鳳二年三月對馬より銀を貢せ人
自より早代曆教より二百二年に年と定む
我々の銀を初く出さる延喜或は大宰府より
毎年限八百九十と貢せと見し一
對馬なる

一 元明和銅元年春武藏より銅を貢せ人
より早代曆教より二百六年と定む銅始

く出たり是より此記ふも中納言を用ひしれ
しとも見とされしもこれ外ありする状
しし年号も和銅とせ

一 聖武天平二十一年二月陸奥守より黄令を
貢ま人皇より甲子代曆教子旨九年と
注と始て出たり此時大佛の像と造りきし
す是を装ふつと所の黄令なれと云納言
求られし陸奥守よりはしめて黄令と
九百両貢せしは此の如しなりと記す此年

号改天平勝寶と改めたり

一 延喜式ふ下野守より毎年功令百五十両
令半五両貢せしと見たりと始末詳

一 佐渡國より黄令ありしは宇治大納言也
小見こり此守は昔よりありしは是を
とるまを志しきりし上秋入道謙信佐中と
攻めてその令を採り西用代是を大岡秀吉
かきし是を知り謙信の子系勝を歎く矣
別ふりしは佐渡の西代がしきりし令とされ

一 かく合出を〜〜 御分く荒れり多し
長久年冥々来るの流り聖多しより此合出出
〜〜のあひ〜

一 石見合より貴合を出るも始と志も貴合
六七年より出るもたふたなり御分合を
〜〜のと止〜

一 伊豆合より貴合白浪といふも

一 陸奥合南部より貴合出を〜〜の合出出
十二年の合出出石見伊豆奥列の合出出

るたひ〜〜古よりつおふさうは御分
御分〜〜の御用ひ〜〜の御分
神祖の君徳と孝作〜〜の

一 天武白鳳十二年河津も御分とも廢ま
〜〜の御分交易ま〜〜の御分
ちひられ〜

一 元明和銅元年浪津御分兼用〜〜所謂
和銅御分

一 孝謙天 寶字四年浪津御分兼用〜〜

天平 浪濤一志洞濤十尚つ又令濤と造らる
元寶 國基 勝室 令濤一志洞濤十尚つ

一 祿徳 孝謙皇祚の号 天平神護元年更濤濤 神功 勝室

一 桓武 延暦十年更濤濤 神平 永寶

一 仁明 義和二年更濤濤 義和 昌寶

一 清和 嘉祥元年更濤濤 長平 永寶

一 清和 貞觀三年更濤濤 統益 神寶

一 清和 貞觀十二年更濤濤 貞觀 永寶

一 宇多 寛平二年更濤濤 寛平 大寶

一 醍醐 延長七年更濤濤 延長 元寶

一 村上 天徳二年更濤濤 乾元 大寶

此以後中納濤と濤れれ申さるは天徳暦
代の濤と用ひしとくころ大明永樂の天子
吉宗の代ふ及て鹿苑院我満波のふの封爵
と受られしとて永樂濤我ふも依賜とて
後公方我政悉ふしと用之しと寛平二年

文明七年 同十五年 三度すその時の天子ふ
濤と賜るしと申しと治ひしと治中ふも文の

十五年、六十万貫と揚々と我々の用足り
たんとた常たりしれ一はと成用之
りり此此以ふ永樂法二貫文と古法は貫
文と高よりといふ

一 天正十五子造大判小判

一 慶長四年始造一分判

一 慶長六年の後大判小判一分判丁浪豆板
おの制改り後河判江戸判などといふ皆造
られしおとひく稱を此お甲別判といふ

一 慶長二年十二月止永樂法圍系法 系法と
りかた天

和名おせき
の古法也

一 寛永十二年六月新系法永樂法 寛永
に寛江戸とと
江坂中筋初りも法これより中筋河法ゆこ
うふぬ又寛文文中新法と法て喜ぶ文
の字と志るは系元禄年中令法代改造了
き大減と法これ一と人も志れおれ法を

一 慶長五年、よりさ記室町及の代より信長秀吉
あ代むおやしく申あより外西入一令派乃

救い得といふ救志ありしに或は交趾の舟を
令浪と交易を為すとあり寛永元年まで
二十餘年の外西の船我出づきの浦にも
ん波く船代中せく商賣し是をたより
寛永十一年中せく舟来り船と我出の商人
ともアニカハ亞馬洗シヤハロノビスシヤハロノ暹羅安南呂宋おのめくふ
以て商賣を寛永の始せく交趾占城安南
呂宋ノビスシヤハロノ暹羅安南呂宋おのめくふ
といふもより來りて商賣せしるその後耶

蘇の法といふ禁をりけしりきとむ
耶蘇の法林をりきさる前我出りうのめく
師の方とあり而の令浪おひしりし是外西
入し令浪をりけしり是外西も宋の申以
より交済といひて後漢の末とてたかとの代
用ひしりをり我出も

神祖のおこりぬひしり令浪山おぬりて
異朝本朝前代末はりしはきとも令浪人お
たとも骨の末とては餘の實化其血肉後毛

の如く骨の二つひききる事なむれを此
沙代のおとくならる有るは

此書廣新古之録世寶證白石先生之
以寶化貨事略令全部分上下之為
二冊題謂金銀錢譜是予秘庫之
小鑑也

金銀錢譜終

此本古蹟新古之類世寶藏白石存卷之三
以實況其事中路令令部分上下之爲
二冊題詞全銀錢譜是予私庫之
小鐵也

Handwritten notes in the bottom left corner of the left page, including the number '14'.

